

京都地下鉄整備(株)	平成27年度経営計画 兼 経営努力結果
------------	------------------------

基本事項

所管局課	交通局高速鉄道部営業課	本市出えん金	22,000 千円
基本財産/資本金	40,000 千円	本市出えん率	55.0 %

「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」

方向性	存続	目標年度	—
-----	----	------	---

「今後の方向性」に向けた基本的方針

業務面	市営地下鉄施設や設備における、保守管理・更新・新設時の監理業務等の受注拡大を図る。
財務面	業務の受注拡大による増収と経費の削減に努め、段階的に赤字幅を縮小し、中期経営計画の期間内（平成29年度まで）に、収支均衡を目指す。
組織面	適正な人員配置、効率的運営を図りながらも、質の高い技術力を確保する。
その他	特になし

当年度の取組目標に対する意見

所管局	財務面において、当期純損失となっていることから、引き続き体制をスリム化することで経費を削減するとともに、新たな業務を受注して更なる増収を図ることで、赤字幅を縮小していく必要がある。
-----	--

当年度の取組に対する総括(※)

団体(※)	東西線の駅間携帯電話不感地対策工事立会業務等を受託したこと、組織体制の見直し（1名減員）をはじめとした人件費の減少等の経費削減を受けて、当年度は400万円の黒字となったが、今回の黒字化は単年度限りのプラス要素も多く、平成28年度以降も収支均衡に向けた努力を継続していく必要がある。
所管局(※)	平成27年度の実績は、業務に関する取組及び財務に関する取組の双方で目標を上回っている。しかし、平成27年度の黒字については単年度限りのプラス要素であるため、平成28年度についても、引き続き、収支均衡を目指して取組を進めてもらいたい。
外郭団体総合調整会議(※)	4期ぶりの最終黒字となったが、今後も継続的な黒字化に向けた取組を継続するとともに、専門的な知識や技術を有する人材を確保しつつ、効率的な経営を継続することが必要である。

京都地下鉄整備(株)	平成27年度経営計画 兼 経営努力結果
------------	------------------------

(1)業務に関する取組

目標「受注業務の拡大」	
中期経営計画 における取組	今後、新たな業務として受注が見込める「可動式ホーム柵」の監理業務や、車両、電気設備関係の監理業務等を受注し、業務の拡大を目指す。
当年度目標	効果的に収益の増を図るため、従来業務の効率化により組織体制のスリム化を行い人件費を増加させず、交通局が発注する、保守管理、設備更新、新設における監理業務等を受注し、業務の拡大を行い、増収を図る。
当年度結果 (※)	東西線携帯電話不感知対策工事立会業務及び烏丸線ホームドア設置に伴う監理業務等の受託により、業務拡大による収益増が図れた。

指標	業務拡大による収益増				(単位：千円)			
中期経営計画	平成26年度			平成27年度			平成28年度	平成29年度
	—			2,000			4,100	6,200
実績	目標	見込	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—	
	2,000	—	2,344	2,000	—	2,465		

(2)財務に関する取組

主要財務数値							(単位:千円)
	平成26年度			平成27年度			備考欄
	予算	見込	実績(※)	予算	見込	実績(※)	
経常収益	252,100	—	280,398	253,500	—	262,000	
経常費用	262,500	—	282,344	258,500	—	257,452	
当期経常増減額	△ 10,400	—	△ 1,946	△ 5,000	—	4,548	
当期正味財産増減額	△ 10,580	—	△ 2,126	△ 5,200	—	4,368	

目標「収支均衡を図る」

中期経営計画 における取組	<p>市営地下鉄施設や設備の、保守管理・設備更新・新設における監理業務等の受注拡大により増収を図るとともに、更なる組織体制のスリム化を行い、人件費など経費削減を図り、段階的な赤字幅の縮小に努め、中期経営計画の期間内（平成29年度まで）に収支均衡を目指す。</p>
当年度目標	<p>業務の効率化により人件費を増加させずに、交通局が発注する新たな監理業務等を受注し、増収を図り、収支改善を目指していく。</p>
当年度結果 (※)	<p>東西線の駅間携帯電話不感地対策工事立会業務を受託したこと、交通局受託業務における修繕費の実績が予算を大きく上回ったこと、組織体制の見直し（1名減員）をはじめとした人件費の減少等の経費削減を受けて、当年度は400万円の黒字となり、目標値を大きく超える結果となったが、今回の黒字化は単年度限りのプラス要素も多く、平成28年度以降も収支均衡に向けた努力を継続していく。</p>

指標	当期純損益額					(単位:千円)	
	平成26年度			平成27年度		平成28年度	平成29年度
中期経営計画	—			△5,200		△2,600	0
実績	目標	見込	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—
	△ 8,000	—	△ 2,126	△ 5,200	—	4,368	

(3)組織に関する取組

目標 「組織のスリム化」と「安定した人材の確保」

中期経営計画 における取組	<p>京都市交通局OB等の経験豊富な職員を比較的安価な人件費で雇用し、京都市営地下鉄の車両や設備の保守点検における作業監理業務などを行ってきた。 今後、適正な人員配置・効率的な業務運営により、組織のスリム化を図っていく。 人材確保については、鉄道の保守業務という特殊な業務であり、安全な運行を維持するため、質の高い人材を安定的に確保できるよう努める。</p>
当年度目標	<p>業務の効率化等により、組織の効率化及び社員数の抑制を目指す。</p>
当年度結果 (※)	<p>組織体制の見直し（1名減員）を実施したことにより、当年度の目標を達成できた。</p>

指標	業務の効率化等による人員体制のスリム化						
	平成26年度		平成27年度			平成28年度	平成29年度
中期経営計画	—		47(6)			42(5)	42(5)
実績	目標	見込	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—
	48	—	48	47(6)	—	47(6)	